



第2分団第1部が全国大会にかけた思い——



1勝負はコンマ1秒。ホースの展長を入念に確認 2選手の指導にも力が入る 3チームワークはばつぐん。真剣な練習の間には笑顔もよく見える

2月から10月まで半年以上も練習を重ねてきた第2分団第1部。全国の頂点を目指す、選手たちの表情は真剣そのもの

椎葉恭介さん(42 下染田)が指揮を執る同部は1〜4番員まで30歳以下の若手がそろい、スピードが持ち味。4年前の県大会後から今のメンバーで練習を重ねる。チームは3年目を迎え、規律とスピードを両立。本町の操法大会では188・08点(第一線:52・96秒、第二線:61・96秒)で優勝。郡大会は182・5点(第一:51・68秒、第二:64・49秒)で2位。9月の県大会では187点(第一:50・49秒、第二:62・31秒)と良い結果を出してきた。全国大会出場は12年ぶりの快挙だった。

県大会後は、2月から行っていた週2、3回の練習を、4日に増やしてレベルアップを図った。選手同士でよく話し合いながら、ホースの伸ばし方など工夫を凝らしてタイムを縮めていった。

仕事後の練習は疲れるし、家には家族もいる。「全国の優勝旗を湯前へ」。強い気持ちで選手たちの体を突き動かした。消防関係者が指導し、他分団の団員は交代で応援にかけつけて練習を支えた。

甲子園 消防



「消防の甲子園」と呼ばれる全国消防操法大会。その頂に本町の第2分団第1部(濱砂貴之部長 8人)が挑んだ。

第2分団第1部は上染田、下染田の2地区を管轄。本町消防団のほとんどが小型ポンプを使用するが、同部と第1分団第1部(上里)の2部は、ポンプ車を使用し、訓練や消火活動にあたっている。

ポンプ車の操法は、5人一組で行う。第一線・第二線の2本の消防ホースの展長、接続をすばやく行い、標的に向かって放水。タイムや動作の正確性などの技術面のほか、選手の士気、チームワークも対象となり、200点満点で評価される。



1よく話し合いながら工夫をしてタイムを縮めた 2交代で練習を支える他の団員 3後ろから選手を見守る濱砂部長